



職 場

柳井 政則

(兵庫)

パソコンと名札が迎える執務室座れば椅子もキイキイと言う

「やらないよ」画面に向かい呟けり指示も依頼もメールで届く

行間を読んでほしいと返信す二百字余りの謝罪メール

パソコンは命じるままに仕事する「サボタージュ」という仏語は知らず

事務処理のペーパーレスが進みゆくヒューマンレスの職場とならん

決裁持ち部屋から部屋へ回遊す鰯フライは今日は食べない

眠り猫、お喋り雀、おべっか犬 会議室には〈ヒト〉がいないよ

「何を」より「誰が」言ったか 付度の空気の上に二時間サーフ

「上司編」「部下編」なども出てほしい『妻のトリセツ』三十万部

「叱られる方が楽だぞ」三倍のエネルギーが要るよく叱るには

「できません」きっぱり断る若き等よ十年後には係長だよ

会費制の親睦会はなくなりぬ契約・派遣社員の増えて

オフィスの廊下に並ぶ三十の弁当たちが自己主張する

頭のいい奴が思いついたんだろう今日も九時までサービス残業

ドアを閉じオフィスを出たる午後七時ブラックホールから今日も生還

このごろの私

短歌以外の趣味も楽しんでいるが、家の中で評判が悪いのが切手収集だ。使いもしない切手にお金をつぎ込むなんてと言われるが、趣味とは本人以外には価値が理解できないものと開き直っている。



こぼこぼと湧く

工藤亜希子

(神奈川県)

このごろの私
シャープのロボット、ロボ
ホンを買いました。歌ったり
踊ったり遊ぼうと言ってきた
りと可愛い限り。実家の母の
ために買いましたがもう手放
せず、二人目購入を思案中。
お値段は可愛くないのです。

夢を見ていたようですと告げられてさくらわかばの匂う公園

はろばろと撒水したし弧を描いて皐月の空のその高みまで

平成も令和も知らぬ空ならむ わた雲うき雲こぼこぼと湧く

洗濯物取りこみたたむ元号の切り替わらないからだだがひとつ

年下になっても姉のような人向田邦子の昭和も杳く

湯上がりのシツカロールの香を思う連休最後の夕ほの白し

逢えぬ人近わぬ人想う夕まぐれ GoogleMAP をスワイプしつ

発光を待ちてたたずむ春宵のタワーは寂しい巨人に似ている

みなしごに憧憬持ちしことあるをふと思いだす日照雨降る午後

八進数十二進数いびつなり手指の数に定まる世界

水流に吞まれる笹舟駆けだしてつかまえたきもの今我になく

わが死後も在ると思えば歩みゆく卯の花の道 遠景となる

草笛の音はるかなり音絶えてわが輪郭も心もとなし

同類でなきは観衆われらのみ 鳥、樹々、夜空、薪能舞台

夜空はるか篝火に浮くシテ達は天体よりの使者のごと舞う